

神戸医療生協支援ニュース

2011年6月 2日 第30号

支援者の集い 22名の参加で意見交換!

6月1日に開いた「支援者の集い」では、直近に支援に行かれた石川医師から現地報告を頂き、続いて井上 好樹氏(ゆうゆう生きがいネットワーク代表)から、「地震・津波から身体弱者を守る危機意識」と言うテーマで講義を受けました。改めて今回の東日本大震災による津波の被害の甚大さを見たとき、「もし、私たちの地域で起こったら?その時の対策は出来ている?」という問題意識の中、参加者からは改めてそれぞれの事業所での防災マニュアルや防災訓練、又自宅での備え等が出来ているのか?など、防災対策は今やなくては!と言う感想などが出されました。5月28日付け神戸新聞でも「防災マップ」が紹介されたり、神戸市でも「地震減災ガイド」等も作成されており(今回はその資料も頂きました)今後の医療生協としての防災対策のあり方を大いに学ぶ場となりました。



今後の震災支援についてのディスカッション

今後の支援活動についてのディスカッションでは、支援者自身のメンタル的な事から、支援活動の内容や刻々と変わる現地の状況を掴みながらの支援の工夫について等、様々な角度からの意見が出されました。その中で共有が出来た内容は、3点です。①長期にわたる支援活動については地域を決めて、そこへの継続的支援が良い。②支援活動が生活支援に変化する中で組合員参加型になる支援活動をすすめて行くためにも事務局体制の強化が必要。③継続的な支援活動が出来るように例えばカルテのようなものを作成し、支援に行った報告書と共に支援の継続性を図る事が出来る工夫を行う です。その他たくさんの意見が出ていますので、少し整理しました。

●支援に関わる意見

- ・食に関してはとても重要。支援の際はよく吟味する事が大事。
- ・支援の入り方では、同じ場所に入り、同じ格好(同じ団体から来ているとわかるような服装)等、決まったパターンで入る事
- ・医療生協としては『技術』者であり、技術で支援する事がわかりやすい。
- ・『神戸』という事が重要。神戸から来たという事がわかるような工夫を
- ・3か月が過ぎ、仮設住宅への支援では、「集える」取り組みと併せた支援行動が必要
- ・受入れ事務局の体制が重要。現地の状況を掴み、その時季に併せた支援活動が出来るコーディネートを
- ・支援活動は2日間は必要ではないか。1日目で気持ちをほぐし2日目に同じ所で支援活動する事は大事
- ・対策本部事務局の体制をもっと充実させてはどうか

●支援に行く上での意見

- ・支援行動は、短くても夜行バスでとんぼ返りではなく、宿泊して少し気持ちをリセットする必要がある
- ・報告書等の書式を作成し、継続的な支援が出来る工夫を
- ・事前の案内が大事。せめて1週間前くらいにはわかるようにして

等でした。又現地では①避難所②仮設住宅③自宅 という生活形態があり、数か月後には仮設住宅と自宅になっていく中で、その時その時に併せた支援活動をきめ細かくされるべきとの意見も複数出ています。

●福島への支援

- ・何よりも、福島民医連と全日本民医連連名で取り組んでいる『原発署名』を広め世論にしていける事が重要だと共有出来ました。

最後に、6月10日～12日(11日の支援活動)の近畿支援行動デーへの参加と、今後長期にわたる支援活動への積極的関わりを続ける事を共有しました。